



第4号  
令和4年  
7月20日発行



自ら考え 学び続ける生徒  
心豊かで 思いやりのある生徒  
体を鍛え やり抜く生徒

## 夏休みは“休まず”に、「よく学び よく遊べ」

－「遊ぶ」とは、学んだことを活用し日常化すること－

石川 浩

69日間に及んだ1学期が本日で終わり、明日から39日間の長い夏休みに入ります。1学期は、「**深中生としての構えと形をつくる**」を重点に掲げて様々な取り組みを進めてきました。1年生は定期テストや部活動といった小学校にはなかった中学生としての日常生活を通して、2・3年生はそれに加えて修学旅行や自然体験宿泊学習といったこの2年間でできなかった宿泊行事も通して、目に見える各学年の深中生らしさを身に付けてきました。こうした1学期の学びの成果を、どう2学期の取り組みにつなげていくか…その鍵は明日からの夏休みの過ごし方にかかっています。



「夏休みは暑いから学校を休みにする」わけではありません。深谷市内の小・中学校の教室にエアコンを設置していただき10年以上経ち、真夏でも快適な教室で勉強できるからです。それでも私は、今も長期間の『夏休み』は必要だと考えています。それは、1学期に学校で学び身に付けてきたことを、自分の力で理解できるようになっているか、そして自分で考え・判断して行動に移せるようになってきているかを試すある程度まとまった期間が必要だと考えているからです。

「**学校は他律による自律の機関**」と言われます。特に中学校にはこの言葉がよくあてはまります。授業や生活指導、学校行事や部活動などには「教え→繰り返し習わせ→できるようにする」、いわゆる教授という「**他律**」の部分が不可欠です。しかし、それで完結するわけではありません。**ゴールは「自律→自立」**です。授業でも、「適応問題を解く」など教えられたことを**活用・応用・汎用**する場面を設けますし、宿泊行事の集大成である修学旅行には生徒が計画し実行する班別行動を入れています。部活動の試合やコンクール、そして生徒会活動も同様の意義があります。少し極端になりますが、**便利とは依存であり、依存とは他律**です。近頃の生活のほとんどが便利に他律化されてきていて、自分で考え・判断して行動することがどんどん少なくなっています。だからこそ**「自分を育てるのは自分」という意識も態度も、自分で自分を動かす「気力」も「モラル」もしっかりと教え・訓練し、一人一人が年相応に努力して自分のものにしなければならない**と思うのです。**夏休みは「他律」を「自律」につなぐ大切な時間**なのです。だから「夏休みは単なる“休み”ではなく、1学期に学んだはずのことが本当に身に付いているかを一人一人が確かめ、活用しながら定着させ学びを広げていく時間」として使ってほしいと考えています。

深谷中学校の職員用玄関を出た突き当たりに「よく学び よく遊べ」の文字が刻まれた石碑があります。深中に赴任して日々この言葉を目にしているうちに、「遊ぶ」の意味について考えるようになりました。『広辞苑』には「学問などのために他の土地に行く」という意味が載せられていました。教室を離れ体験的に学び直すことや学んだことを日常化したり生活化したりすることも「遊ぶ」なのではないかと考えるようになりました。この意味で、「よく学び よく遊べ」という言葉を夏休みを迎える深中生たちに贈り、令和4年度第1学期を終えたいと思います。

## 1学期を振り返って

収束に近づいたかに思われたコロナ禍ですが、新たな変異株BA2により第7波が本格化しているそうです。今学期もオンラインで終業式を実施しました。

その中で、各学年の代表が、今学期を振り返るとともに、夏休みへの決意を語ってくれたので、その一部を紹介します。

### 飯塚 蒼真 さん

1年1組



1学期を振り返ってみて、ぼくは頑張ったことが三つあります。一つ目は学校生活です。初めての中学校生活で学級委員となり、学年集会の運営や学年をよくするためのキャンペーンなどいろいろな活動に取り組みました。責任感をもって取り組むことは大変でしたが、とてもやり甲斐のある活動でした。

二つ目は勉強です。小学生のときより5分間延びた授業は、想像以上に内容が豊富で難しくなりました。中間テストや期末テストがあることも心配でしたが、そのことで小学校のときよりも積極的に勉強に取り組むことができました。

三つ目は部活動です。練習のときには、みんなに負けないようにたくさん練習したり、自分が苦手なことを意識して取り組んだりしています。試合のときは、ボール拾いなどで先輩のサポートを全力でやりました。先輩を見ながら、もっと上手になれるように工夫して練習していきたいです。

明日から始まる夏休みは、自分で使える時間がたくさんあるので、1学期に頑張った三つのことをいかして、もっと成長するために、計画をしっかり立てて効率よく取り組めるようにしたいです。そして2学期、個人としては勉強と部活動を両立できるようにしたいです。具体的には1学期よりもテストでよい成績を取ること、部活動の大会でよい結果を残すことを目指します。また1年生全体では、何事も手を抜かず全力で取り組める学年になるよう、引き続き学年に員の役割も頑張りたいと思います。

### 荒張 優菜 さん

2年1組



皆さんの1学期はどんな学期でしたか？私の1学期は、一言で表すと『変化』でした。

生活面では、2年生になり緊張感が欠け1年生のとき当たり前にできていたことができなくなっていました。そこで「目を覚ませ！リスタートキャンペーン」を行い、キャンペーンを通して、当たり前だったことをもう一度当たり前に戻せました。特に給食や帰りの会の開始が早くなったことが成果です。私も、学年全体が意識できる呼びかけを心がけました。学習面では、授業への取り組み方や提出物を全員揃って出せないなどが課題でした。この課題は1学期には解決できませんでした。2学期はこうした課題を解決できるよう青学年全体で頑張りましょう！部活動では先輩になり、1年生の手本となれるか不安でしたが、私たち自身が積極的に部活動に取り組む姿を示すことで、後輩にいろんなことを教えていると感じるようになりました。これから2年生が中心となって部活動を引っ張って行くことになります。先輩という自覚を今まで以上にもち、先輩にふさわしい行動をとるようにしていきましょう。自然体験宿泊学習は中学校生活で初めての宿泊学習で、分からないことも準備をすることも多く大変でした。初日は一人一人がしおりをよく読み考えて行動ができませんでした。このままではダメだという意識を全員で共有し、二日目には初日の課題を解決できました。実行委員だけでなく学年の皆で解決できたことが私たちの大きな自信になりました。責任と自覚が私も青学年も少しずつ『変化』させてくれています。

夏休みという私たちに任せられる時間を効果的に使い、2学期に私の、そして私たち青学年のより大きな『変化』を生み出す基盤を、創っておきたいと思っています。

### 馬場菜々美 さん

3年1組



コロナ禍がようやく落ち着き、私たちが3年生となった4月。私たちの修学旅行に向けた準備が動き始めました。3年ぶりの修学旅行であることや再びコロナウイルスの感染が広がらないかという不安の中でのスタートでした。その一方で、深中生となって最初で最後の宿泊行事が修学旅行になるというワクワクが膨らむスタートでした。時間的な余裕がない中なので、実行委員会は休み時間や放課後など、短い時間を使ってコツコツと準備を重ねました。スローガンには私たち緑学年の力＝グリーンパワーという言葉はどうしても入れたと考え、「歴史を学びにほな行こか！～グリーンパワーで楽しめ！学べ！助け合え！～」としました。この緑学年が深中の日常の中で身に付けてきた力を、京都・奈良という特別な場所と時間の中で発揮してきたいという熱い想いから創られたスローガンでした。

一日目は、いつもとは違う場で楽しむ気持ちが勝り、学び助け合うことが不十分でした。学校生活でできていたことができなかったことを反省し、夜の実行委員会ではグリーンパワーとは何なのか、どうしたらグリーンパワーを発揮できるのかを考え、二日目は緑学年が深中での日常で身に付けてきたことができる緑学年らしい生活をしようと話し合いました。そして自分たちが緑学年の実行委員であることを強く意識して二日目の活動に取り組みました。その結果、二日目も三日目もグリーンパワーを発揮することができ、スローガンを達成する修学旅行にすることができました。修学旅行を通して、私たちは、先生に言われる前に自分たちでいろいろ考え準備することの大切さや、考えたことを行動にする大変さを学びました。また失敗を成功に結びつけるためにいかに協力が大切かも学びました。

私たち3年生は、これから受験に向けた取り組みが本格化します。修学旅行で磨いたグリーンパワーは、受験に向けてもきっと活かせると考えています。2学期にまた皆で協力して大きな成果を手にするために、明日から始まる夏休みは個人のグリーンパワーをしっかり磨く期間にします。